

ポイント

学習指導案例

【単元の目標について】資質・能力の三つの柱に即して書きます。ただし、一文で書く場合と、三文に分けて書く場合があります。

2年組	指導者	〇〇 〇〇
単元名等	かけ算をつかって計算できるようになるう	
単元 目 標	<p>(1) 乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできるようにする。(知識及び技能)</p> <p>(2) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることができるようにする。(思考力, 判断力, 表現力等)</p> <p>(3) 乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとするようにする。(学びに向かう力, 人間性等)</p>	
主な学習活動や指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を掲示しておく。</li> <li>・各自の考えを書かせる際、まずは式を表させ、図や言葉で説明を書くようにさせる。</li> <li>・ICTやホワイトボードの前(タイトル)</li> <li>・同じ考えの児</li> </ul>	
ねらい	乗法を活用した牛乳の数の求め方を、同じ数のまとまりに着目し線で囲んだり移動させたりし、友だちと意見を伝え合い分類することにより、 <u>図と式、言葉などを用いて説明できるようにする。</u>	
評価規準 【観点】	<p>ものの数を求める場面で、乗法が適用できるように分割したり移動したりするなどの工夫を考え、<u>図や式、言葉などを用いて説明できる。</u> ← <b>連動</b> → <b>【思考・判断・表現】</b></p> <p>○ケースに入った牛乳の絵を見せる。</p>	
全 ○ 時間 展 開	<p>【めあて】かけざんをつかって、牛乳の数をしらべせつ明できるようになるう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しのステップとして、最初に数が多いことや空いている部分があることに着目させ、今までの学習との違いを確認させる。</li> <li>○次に、既習事項(1つ分の数×いくつ分、同じ数のまとまり、わけてたす等)を想起させながら、どんなまとまりに着目すればよいか出させる。</li> <li>○各自が見通しをもった状況となったら、課題を位置付ける。</li> <li>◎<u>絵を図式化することが難しい児童には、具体物を操作させることで、数のまとまりに着目できるようにする。</u></li> </ul>	
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ <b>【特別な教育的支援を必要とする児童生徒や「努力を要する」状況の児童生徒への配慮について】</b></li> </ul> <p>記入例にもあるように児童生徒の姿をより具体的にイメージして設定しましょう。</p> <p>(例) 〇〇の児童には、△△することで、~できるようにする。</p> <p>○→困り △→手立て ~→期待する姿</p> <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○また、特別な教育的支援を必要とする児童生徒については、通常の学級における個別の指導計画の計画が作成されている場合は、その内容を記載することが望ましいです。</li> <li>○学びを目覚めさせるために、振り返りの視点を明確に持たせた上で、振り返らせる。</li> </ul>	
	【振り返り】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図やかけ算をつかってせつ明することが</li> <li>・ぜんぶからひくことは思いつかなかったか</li> </ul>

【評価規準について】具体的に設定しましょう。主語は、児童生徒なので、文末は「~できる」、「~している」などで表現します。

【ねらいについて】主語は、授業者です。そのため、文末は、「~できるようにする」といった使役表現とします。

【振り返りについて】子どもの言葉で位置付けると、視点がより明確になります。

◎特別な教育的支援を必要とする児童生徒や「努力を要する」状況の児童生徒への配慮(手立て等)の位置付け。